



## ひろがりゆくデザイン 創作・保護・活用に 求められる ユーザー視点とは

久保田大輔氏

特許庁 審査第一部 意匠課長

田中一雄氏

株式会社 GKデザイン機構 代表取締役社長 CEO

松井英生

一般財団法人日本特許情報機構 理事長

### 「ひろがる「デザイン」の意味」

松井◎自動車や機械、アパレル等の産業政策に携わったことから「デザイン」の持つ力には長らく関心をもってきました。しかし特許庁が『「デザイン経営」宣言』を発表して以降、我が国においてその概念は従来と変わってきましたね。

田中◎私が代表を務めているGKデザイングループは工業デザインからスタートした総合デザイン会社です。昨年秋に創立70周年を迎えましたが、今では空間デザイン、グラフィックデザイン、サービスやエンジニアリング、公共のデザイン等多岐にわたって取り扱っています。日本で開催された万博は愛知まで5回全て会場設計にもかかわってきました。こうして工業デザインから領域が広がっていくと、「デザイン」とは何だろうと思いますね。「デザイン」を「意匠」と訳したのは高橋是清だとか。「意(い)」の「匠(たくみ)」として、考えることのイノベーションという当初の意味は正しかったと思います。その後、現在のように「意匠」は色と形の造形だと運用されるようになったため、諸外国のデザイン行政と格差を生む原因になってしまったのでは

ないでしょうか。

「デザイン」はアメリカではコマーシャルアートやビジネスの領域として発展してきました。ヨーロッパではバウハウス等のデザイン学校がありましたから、かなり社会的な思想性から発したところがあります。一方、日本は工芸の延長で「用の美」として発してきましたから「デザイン」という言葉は色と形ととらえられて定着したと考えます。しかし今は「デザイン」の対象が拡大してきて、英語の意味に近づいてきました。もともと英語の「DESIGN」の意味はモノやコトの企画・設計というような意味合いがありますよね。中国ではそれを「設計」と訳し、日本では「意匠」と訳しました。自著の『デザインの本質』にも書きましたが、そこがやはり大きな違いで、「デザイン」はモノやコトの企画・設計と言ってもいいかもしれない。そう考えると「デザイン」の意味の幅はだいぶ広がります。世界のデザインは、一層コト重視、あるいは体験とかサービス、形ではないものに広がってきていて、それが重要だと言われている影響を今、日本も受けているのではないかと思います。

そうした中で今年10月に「世界デザイン会議東京2023」が開催されます。日本では73年京都、89